

2023年度 日本工学院専門学校											
建築設計科											
建築史											
対象	1 年次	開講期	前期	区分	必修	種別	講義	時間数	30	単位	2
担当教員	三矢 雅人			実務経験	有	職種	建築設計／建築設計事務所主宰				
担当教員紹介											
建築家のもとで10年間設計監理の修業をしたのち独立し、デザイン事務所を主宰。リノベーションや住宅、オフィスビル等の設計監理などに関わる経験を持つ。											
授業概要											
この授業では、教科書に併せて「配布プリント」を中心に進める。 建築を知らない学生でもわかるように、写真や映像を使って進めるが、知識は漠然と聞いているだけでは身に付かないので、プリントに各自が記入しながら行なう。積極的に配布プリントなどに書き込み、知識や技術を身につける。											
到達目標											
鉄骨の建築では他の工法と異なり、必ず鉄骨の加工工場が躯体工事の中核となる。その工場内で行われる加工技術やその製品精度の検査に関する知識を学ぶ。一方で、工事現場で組み立てるための建て方技術や接合方法について学び、建物全体を精度よく施工する方法を理解する。また、建築生産1で学んだ木造や鉄筋コンクリート造の施工技術の知識について復習を行い、今回学んだ鉄骨造も含めて内装および外装の仕上げ工事に関する施工技術を理解し、建築工事全般について説明ができるようになる。											
授業方法											
目標達成のため下記授業内容詳細により授業を展開する。											
成績評価方法											
試験・課題 平常点	50% 50%	知識の習得度を確認するために、期末試験で評価を行う 配布プリント(＝確認用)の記入状況の評価、授業参加度、授業態度による評価									
履修上の注意											
毎回、必ず「配布プリント」を持参すること。 平常点を重要視するので、毎回出席し、授業中は配布プリントに書き込むことを心掛けること。 遅刻や欠席をしないこと。やむを得ず欠席した場合は、担当教員のいる時にプリントを受け取って、自分で学習すること。 なお、下記のスケジュールは、授業の進行状況や学生の習熟度状況によって変更することがある。											
教科書教材											
教科書：コンパクト版建築史【日本・西洋】／毎回資料を配布											
回数	授業計画										
第1回	ガイダンス／近代建築史① 授業の注意点／近代建築史の基本知識										
第2回	近代建築史 近代建築史の基本知識										
第3回	近代建築史 近代建築史の基本知識（3人の重要な建築家）／「落水荘」の設計意図										
第4回	近代建築史 近代建築史の基本知識（3人の重要な建築家）／「西洋美術館」の設計意図										
第5回	近代建築史 近代建築史の基本知識（3人の重要な建築家）										

2023年度 日本工学院専門学校	
建築設計科	
建築史	
第6回	日本建築史 日本建築史の基本知識 縄文～平安
第7回	日本建築史 日本建築史の基本知識／現代の技術と五重塔の技術、建築のアイデア
第8回	日本建築史 日本建築史の基本知識 飛鳥～平安、中世
第9回	日本建築史 日本建築史の基本知識 近世 桃山～江戸
第10回	日本建築史 日本建築史の基本知識／桂離宮の修復にたずさわった人々
第11回	日本建築史 日本建築史の基本知識 近代～現代 住宅史
第12回	西洋建築史 西洋建築史の基本知識 古代ローマ、中世
第13回	西洋建築史 西洋建築史の基本知識 ロマネスク、ゴシック
第14回	西洋建築史 西洋建築史の基本知識 ルネサンス、バロック、18・19世紀
第15回	西洋建築史／まとめ 西洋建築史の基本知識 20世紀 / 全体のまとめ